

東海経済レポート

（2020年6月）

～コロナ禍の影響を受け、生産・輸出・個人消費は底割れの様相を示す～

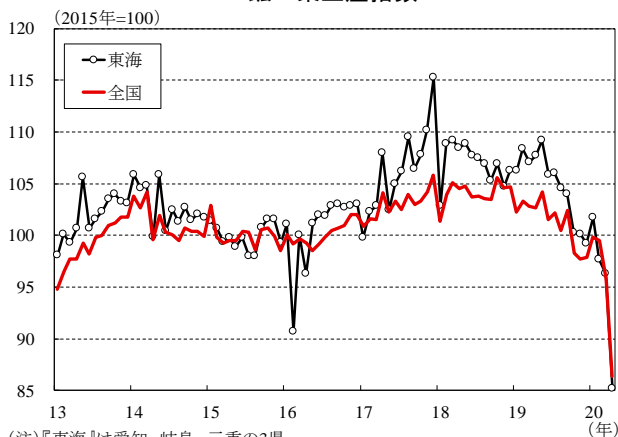
【足元の経済情勢】

- ◇ 東海経済は新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にある。4-5月の経済指標をみると、企業部門は、生産や設備投資が急減したほか、輸出額も底割れした。家計部門でも、生活必需品を除いた個人消費が大幅に減少している。今後は経済活動の再開を受け、5-6月の指標の一部は底入れの動きを示すと予想されるが、コロナ禍以前の水準を回復するまでには相当の期間が必要となろう。
- 生産は、4月の鉱工業生産指数が前月比▲11.5%と2ヵ月連続で低下し、2011年5月以来の低水準となった。業種別では、当地域主力の輸送機械は同▲17.8%（前年比▲27.8%）と大幅に落ち込み、電気機械も同▲8.9%（前年比▲9.8%）と減少した。一方、電子部品・デバイスは同+41.3%（前年比+40.4%）と急増した。
 - 設備投資については、1-3月期の大企業の投資額（速報段階）は前年比▲11.1%の減少となった。製造業が同▲11.0%、非製造業は同▲11.1%の減少となり、一社当たり投資額の前年比増加率も低水準となっている。金属工作機械の4月の国内受注額（当地区主要8社）は、自動車メーカーからの受注の急減により前年比▲58.3%と17ヵ月連続のマイナス推移となり、水準でも2010年1月以来の低さとなっている。
 - 5月の輸出額（円ベース）は、10ヵ月連続の減少となるなか、伸び率が前年比▲43.6%と大きく底割れした。米国向けが同▲61.4%、EU向けも同▲47.7%と激しく落ち込んだが、経済活動が概ね回復してきている中国向けは同+4.1%と増加した。品目別では、当地域主力の自動車と同▲58.4%、自動車部品も同▲58.6%など、3ヵ月連続で全主要品目がマイナスとなった。
 - 4月の有効求人倍率は、愛知、岐阜、三重、静岡の4県揃って前月比低下しており、これは4ヵ月連続となる。2019年春頃をピークとした低下基調が続いている。
 - 個人消費関連では、4月の小売主要3業態の販売額は前年比▲10.2%と悪化が加速しつつ2ヵ月連続でマイナスとなった。業態別では、コロナ影響とみられる食料品備蓄の動きが継続し、スーパーが同+9.6%と3ヵ月連続で一桁台後半の大幅増（増加自体は4ヵ月連続）となった。一方、百貨店は同▲70.7%と2ヵ月連続の大幅減となり、コンビニも同▲11.4%と2ヵ月連続の減少となった。4月の景気ウォッチャー調査は、現状判断DIが15.1と前月から改善し、底入れの兆しを見せている。
 - 4月の住宅着工戸数は年率換算8.6万戸、前年比+15.5%と5ヵ月ぶりに増加した。用途別では、分譲マンションが同+378.0%と急増したことが全体を押し上げた。

【生産①】

4月の鉱工業生産指数は前月比▲11.5%と、2ヵ月連続の低下で、2011年5月以来の低水準。

鉱工業生産指数



【生産②】

主要品目で前月比減産、特に輸送機械が急減。一方電子部品・デバイスは急増した。

業種別の鉱工業生産(東海)



【設備投資】(速報段階)

1-3月期の大企業の設備投資は前年比▲11.1%の減少。1社あたり投資額も低水準。

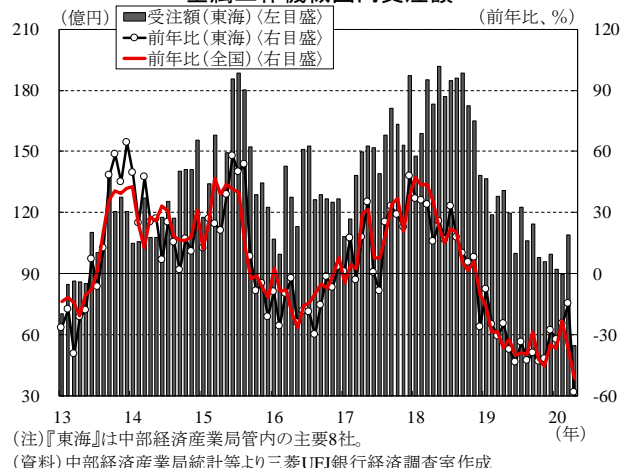
大企業の設備投資



【金属工作機械受注(国内)】

4月の金属工作機械の国内受注額は前年比▲58.3%と17ヵ月連続の減少で、2010年1月以来の低水準。

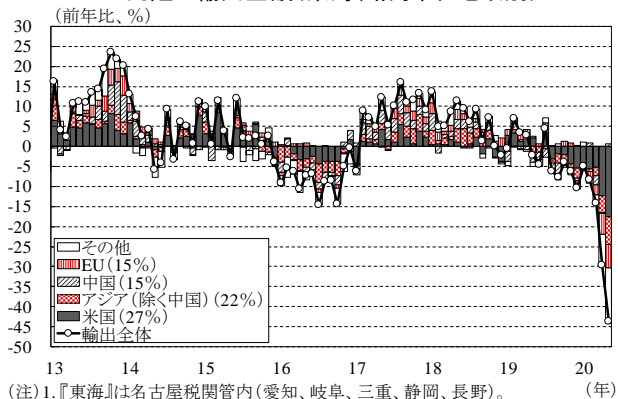
金属工作機械国内受注額



【輸出】

5月の輸出額(円ベース)は前年比▲43.6%と10ヵ月連続で減少。主力の自動車・同部品が大幅減少。

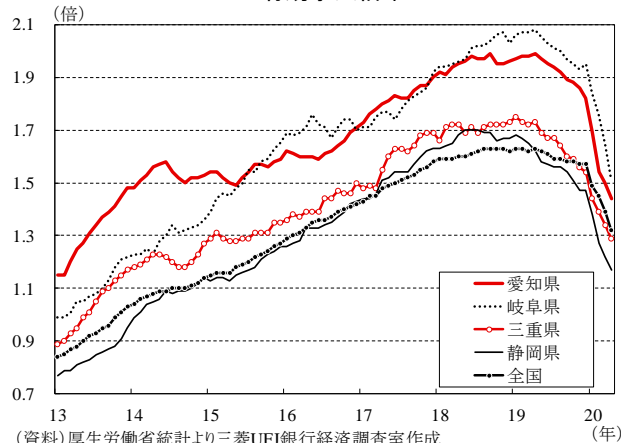
円建て輸出金額(東海、相手国・地域別)



【雇用】

4月の有効求人倍率は、愛知、岐阜、三重、静岡の4県揃って低下。4県揃っての減少は4ヵ月連続。

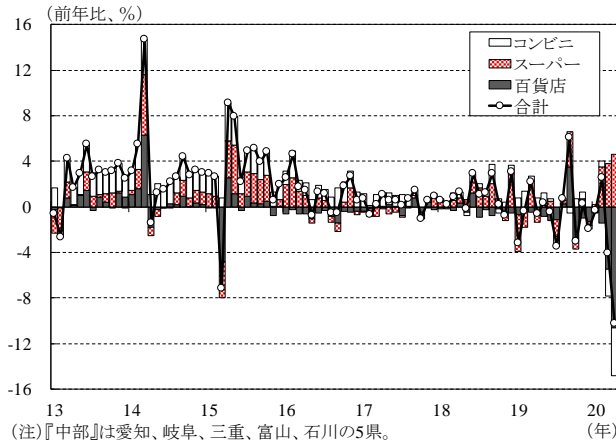
有効求人倍率



【個人消費】

4月の小売主要3業態の販売額は前年比▲10.2%。スーパーは増加も、百貨店の減少幅は更に拡大。

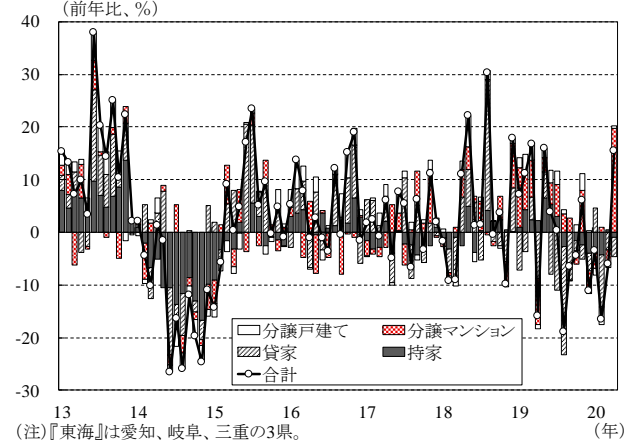
小売主要3業態の販売動向(中部)



【住宅投資】

4月の住宅着工戸数は前年比+15.5%と、分譲マンションの着工増により5か月ぶりに増加。

新設住宅着工戸数(東海)



【景気ウォッチャー調査】

5月の現状判断DIは15.1で、4月対比+4.5ポイントの上昇と底入れの兆し。

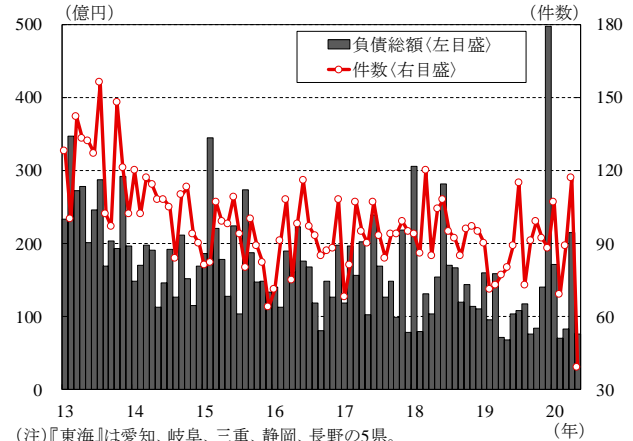
景気現状判断DI



【倒産件数】

5月の企業倒産件数は39件で、前年比▲51.3%と急減。負債総額は76億円(同+12.0%)の増加。

企業倒産(東海)



【原油価格】

WTIは、世界的な行動制限緩和による需要増加への期待が高まり、1バレル30ドル台後半まで上昇。

原油価格



【円相場・株価】

日経平均株価は、経済活動正常化への期待から2万2千円台を回復。為替は1ドル107円前後で推移。

円相場・株価



照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室（名古屋）

福田 洋子 youko_2_fukuda@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。